

## いわき農林事務所ニュース

2006年 9月号

### ◎活動状況

- ・有機栽培実証ほ(水稲・ネギ)生育順調
- ・渡辺小の「田んぼの学校」その6
- ・福島県高(こう)病原性鳥インフルエンザ  
いわき地方対策本部担当課長等会議が開催されました
- ・JAいわき市梨(なし)部会全員153名が  
エコファーマーに
- ・いわき地方“緑”と“農”のイベント情報発行!
- ・集落営農塾が開講!

### ◎トピックス

- ・皆川食糧部長農政講演会が開催されました
- ・田舎暮らし体験で、農山村の活性化を!  
～出先機関連携事業「プレターン」モデル事業を実施



## 活動状況

### ○有機栽培実証ほ(水稲・ネギ)生育順調

いわき農林事務所では、今年度から水稲とネギの有機栽培実証ほを設け、栽培技術の実証や普及推進を図っています。現在の各実証ほの状況をご紹介します。

水稲は、長かった梅雨の影響を軽減し体質強化を図るため、7月下旬から8月中旬にかけて、認可された食酢等資材の散布を4回行いました。有機栽培の稲は、一般のほ場に比べて草丈が長く、葉色も濃いのが特徴となっています。8月7日には走り穂が見られ、同17日には出穂期を迎えました。出穂にはややバラツキがありますが、順調な生育となっています。

ネギは、7月31日に追肥(ついひ)を行いました。また、8月に入ってからハキダメギクやメヒシバなどの除草をまめに行っています。梅雨明けに伴い湿害による欠株や病害虫の発生も一段落(ひとだんらく)し、淡かった葉色も順調に回復して新葉の葉先枯(はさきか)れも見られなくなっています。6~7月の長雨と日照不足による生育ムラは依然見られますが、一般のネギと比べても遜色のない良好な生育となっています。



有機栽培水稲の生育有機栽培ネギの生育



有機栽培ネギの生育

「田んぼの学校」は、いわき市立渡辺小学校を含む県内8箇所の小学校において、現在実施されております。それぞれの小学校の児童たちが作成した『田んぼの学校新聞』が、7月27日に発行されました。『田んぼの学校やまなみっこ新聞』は、県いわき合同庁舎3階掲示板に掲載されておりますので、近くへお寄りの際は、ぜひご覧ください。

また、第2号(11月下旬)、第3号(来年1月下旬)も順次発行されますので、そちらもお楽しみに！



田んぼの学校やまなみっこ新聞

## ○福島県 高(こう)病原性鳥インフルエンザいわき地方対策本部担当課長等会議が開催されました

8月11日、福島県高(こう)病原性鳥インフルエンザいわき地方対策本部担当課長等会議を開催しました。

国内では、6月23日に隣接する茨城県で鳥インフルエンザ清浄化宣言がなされましたが、海外に目を向けると、依然としてH5N1亜型高(こう)病原性鳥インフルエンザが世界規模で発生しています。東南アジアでは人への感染や死亡例が報告されており、ウイルスの突然変異により人から人へ感染する「新型インフルエンザ」の流行が懸念され、国際獣疫事務局(OIE)では監視活動を強化しています。

このような情勢を受け、会議では、茨城県での鳥インフルエンザ発生から清浄(せいじょう)化宣言までの経過や海外での発生状況を確認した上で、昨年末に設置した当本部の体制を見直し、内外の発生状況等を踏まえて柔軟に対応できるようにするとともに、防疫作業マニュアルの再検討を行いました。

また、長時間にわたる防疫作業などで人への感染の可能性もあることから、いわき市保健所から防疫作業従事者の健康対策が説明されました。

万が一、県内で鳥インフルエンザが確認されたときには、副知事を本部長とする福島県高(こう)病原性鳥インフルエンザ対策本部が、また地方組織として農林事務所長を本部長とする地方対策本部が設置され、家畜の防疫対策や食の安全・安心の確保、畜産農家への支援等の対策を行います。

## ○JAいわき市 梨(なし)部会全員153名がエコファーマーに

8月22日、JAいわき市梨(なし)選果場でエコファーマー認定証交付式が開かれ、152名の方々が新たにエコファーマーに認定されました。昨年認定された1名とあわせて、梨(なし)部会の153名全員がエコファーマーになりました。

引き続き、梨(なし)選果場操業開始式が行われ、生産者や関係機関、報道機関が見守るなか、待望の今年初の県産ナシがトラックで出荷されました。

いわき地方のナシは、光センサー選果で糖度が高く「サンシャインいわき梨(なし)」のブランドで有名ですが、フェロモン剤による殺虫剤の削減など環境にやさしい農業に取り組んでおり、部会員全員がエコファーマーに認定されたことで、ブランドの名声をますます高めることが期待されます。

今回の認定で、いわき地方のエコファーマー認定件数は、442件に達しました。こうした部会ぐるみのエコファーマー認定がさらに広がっていくものと期待されます。



## ○いわき地方“緑”と“農”のイベント情報発行！

食の安全・安心や森林環境等に関心が高まる中、県では環境にやさしい農業や県民一人ひとりが参画する森林づくりなどを推進しています。いわき農林事務所では、これらの取組みを推進させることを目的に、いわき地方に在住の皆様を対象に「食」や「農業」さらには「森林林業」に関するイベントを次のとおり開催します。

皆様ふるってご参加頂きますようお願い申し上げます。



↑ イベント情報へ

## ○集落営農塾が開講！

8月28日、いわきワシントンホテル椿山荘で、集落営農塾開講式と第1回の講座が行われ、地域のリーダーである農業者等約50人が参加しました。

この塾は、いわき市地域担い手育成支援協議会の主催で、品目横断的経営安定対策の対象となる集落営農組織の育成を目指して、大学教授や税理士などの専門家を講師に9月26日まで6回にわたって開かれます。地域のリーダーである受講者の方々を通じて集落営農への理解が広がるものと期待されます。

まず、いわき市地域担い手育成総合支援協議会の高木(たかぎ)会長(JAいわき市経営管理委員会会長)があいさつし、品目横断的経営安定対策等の農政の大転換が行われるなかで、誰を担い

手に、どのような形で集積を行うか、集落営農ビジョンをつくろうと訴えました。

引き続き、第1回の講座が行われました。

はじめに、秋田県の特定農業法人の先進事例がビデオ上映されました。機械の共同利用で経費を削減し、園芸部門で女性や高齢者が生き生きと働く姿が紹介されました。

次に、「みんなで作る21世紀の永井の農業」と題して、いわき市の永井地区営農改善組合の蘆谷組合長が、基盤整備をきっかけに担い手に農地を集積し、転作ソバを農家そば屋で販売し地域活性化に取り組んでいる事例を発表しました。身近な地域の先進事例を受講者はうなずきながら熱心に聞いていました。

最後に、山形大学の楠本教授が講演を行い、集落営農は個人大規模経営よりも小さい経営リスクで規模拡大による経費削減が可能であること、経費削減にとどまらず高齢者や女性の力を活用して、複合部門・加工・直売等で農産物の付加価値と地域の活力も高めることができると語りました。受講者は集落営農の可能性について理解を深めたようでした。



楠本教授講演の様子

## トピックス

## ○皆川食糧部長農政講演会が開催されました

8月11日、いわき新舞子ハイツにおいて農林水産省総合食料局食糧部長 皆川芳嗣氏をお迎えして農政講演会が開催されました。

皆川部長は、いわき市久ノ浜(ひさのはま)町の出身で農林水産省に入省後(ご)、数々の要職を歴任され、現在は日本のみならず世界的視野に立って食糧問題に携わっておられます。

開会の後、主催者を代表して土地連いわき支部若松支部長から、また、来賓を代表して岩城参議院



議員農林水産委員長からそれぞれ挨拶を頂きました。

開会式の様子

講演は「農政改革とWTO」と題して、2007年(平成19年)から導入される経営所得安定対策等大綱の内容や、WTOをめぐる国内外の情勢などについて分かりやすく説明され、出席された方々は今後の食糧問題をめぐる話題について、熱心に耳を傾けていました。



## ○田舎暮らし体験で、農山村の活性化を！ ～出先機関連携事業「プレターン」モデル事業を実施～

いわき市の中(ちゅう)山間地域では、市内の平坦部に比べて高齢化や人口の減少等が進んでいます。一方、都会では、自然を求め田舎で休暇を過ごしたい、田舎暮らしをしたい、という方(かた)が増えています。

そこで、いわき地方の中(ちゅう)山間地域での宿泊体験等によりターンを促進するため、「プレターン事業」が実施されました。本事業は、いわき地方の県出先機関・市・地元の地域づくり団体から成る、「プレターン推進事業実行委員会」が主体となって行われました。

8月26・27(にじゅうしち)日に川前町(かわまえまち)の「いわきの郷鬼ヶ城」をメイン会場に行われ、首都圏からの参加者を中心に子供連れの家族や中高年夫婦の方(かた)など、6組20人が参加しました。参加者は、農家に宿泊しながら、農作業体験、魚釣りなどを体験したほか、交流会では地元の方々との意見交換を行いました。

参加者は田舎暮らしを満喫した様子で、子供達の夏休み最後の良い体験となっただけではなく、今後の定住促進・二地域居住にはずみがつくものと期待されます。



農作業体験の様子

◀もどる

すすむ▶